

レポート

被災から2カ月で完全復旧を 成し遂げた 日産いわき工場の「絆と挑戦」

日産自動車いわき工場

3月11日午後2時46分、宮城県沖の海底を震源として発生した大地震は、日本における観測史上最大規模のマグニチュード9.0を記録し、東北地方や関東北部に甚大な被害をもたらした。その日、日産自動車いわき工場(以下、いわき工場)のある福島県いわき市も震度6強の烈震に襲われた。

地震が起きたとき様子を従業員の1人はこう話す。「ぐらぐらと揺れ出した時は、普通の地震かなと思ったが、すぐに激しい揺れに変わり、地響きと破壊音で耳が裂けそうになった。『この工場はどうなってしまうのか、家族は無事だろうか』。そんな思いにかられながらも、数分間、必死に耐えるしかなかった」。

揺れが収まると、全員が建屋の屋外に避難し、ただちに点呼がとられる。外出中の従業員もいたため、安否の確認に多少の時間はかかったが、やがて当日の日勤者304人全員の無事が確認された。

いわき工場は16時間体制(8時間・2交代)で日勤の操業時間は午後3時までだが、当日は普段の日よりも生産量がやや少なめで、地震が起きたときは、ほとんどの従業員は作業を終えて比較的安

全な控え室に戻っていた。まさしく不幸中の幸いだった。「これが作業のピーク時だったら、果たして人的被害を出さずにすんでいたか」。誰がそう思っても不思議でないほど、震災直後の工場内は惨憺たる状況だった。

工場全体が被災し 生産停止に追い込まれる

いわき工場は年間37万6,000基のエンジンを生産する日本に2箇所ある日産のエンジン製造拠点の1つ。「フーガ」や「スカイライン」、海外向けの「インフィニティ」ブランドなど高級車用のV型6気筒(VQ)エンジンを生産する。1994年に生産を開始した日産本体としては国内で最も新しい

小沢伸宏工場長

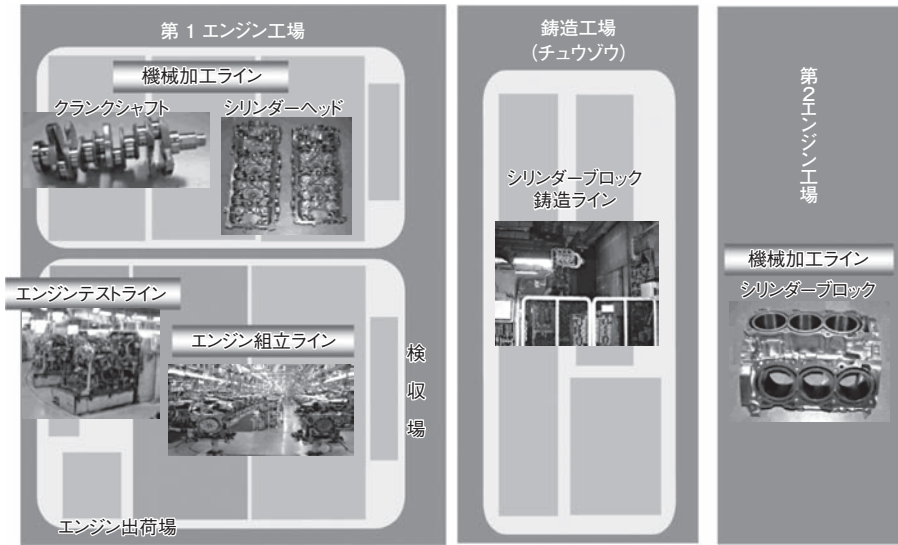


工場概要

会社名：日産自動車(株)いわき工場
所在地：福島県いわき市泉町下川字大剣386
生産開始：1994年
従業員数：731人(2011年8月末現在)
事業内容：V型6気筒のVQエンジンの製造



いわき工場 敷地・建屋面積&配置図



工場であり、生産ラインの自動化率が約60%と高いことでも知られる。完成したエンジンは主に車両工場である栃木工場に納入されるが、一部のエンジンは九州工場や海外にも出荷されている。

工場の敷地面積は20万1,500m²で、敷地の中に第1エンジン工場、鑄造工場、第2エンジン工場の3工場がある。震災により、工場全体が甚大な被害を受けたが、中でも深刻だったのがクランクシャフト、シリンダーヘッドの加工ラインと、エンジンの組立ライン、テストラインなどがある第1エンジン工場だった。

震災直後、屋外のテニスコートから伸びた地割れが数十センチも口を開け、工場内にまで広がった。組立職場では天井からつり下げたダクトが落下したほか、組立ラインではエンジンが架台から

落ちた。また加工ラインでも設備が倒れたり、ダクトが外れるなどした。最大の問題は、工場内の至るところで激しい地盤沈下が起きたことである。製品加工ではマイクロメートル単位の加工精度が求められるが、設備が傾いてしまうと、加工精度が出せなくなる。この状況を目の当たりにして小沢伸宏工場長は「復旧まで3カ月以上はかかると直感した」という。

福島、東北復興のエンジンになろう

しかし、復旧作業が始まると、いわき工場の復興は、周辺のどの企業よりもそのテンポは早かった。同工場ではこの復興プロジェクトを「絆と挑戦」と名づけた。というのも、復旧には生産技術

震災直後の被害(組立)

